

農村伝道神学校学報

学校法人鶴川学院
農村伝道神学校
発行人 高柳 富夫

「恐れるな」

(マタイ一〇二六―二八)

学校法人アジア学院

理事長 大津 健一

農村伝道神学校を卒業される皆様、ご卒業おめでとうございます。また、この機会にみ言葉をとり次ぐ機会を与えられ感謝します。アジア学院は、農村伝道神学校と歴史的に深いつながりを持った学校です。また、二〇一一年三月十一日の東日本大震災の後、震災被害と共に東京電力福島第一原発事故による放射能汚染問題に直面し、一時避難場所として学校の施設や寮を提供して下さった農村伝道神学校の皆様に改めて感謝を申し上げます。

今日「恐れるな」というテーマでお話をさせて頂きました。地震直後、私はアジア学院の再建どころか、学校は現在地では続けられないのではないかと不安に駆られて、当時眠れない日々を過ごしたことを思い出します。また、アジア学院は、土壌や農作物、家畜などへの放射能による汚染によって胸に刺さるような深刻な問題を突きつけられました。しかし、あの絶望的状况の中にあるとき、当時の日本基督教団関東教区議長の前田國磨呂先生を始め教区役員が地震数日後にアジア学院を訪問してくださったこと、また、地震直後にお願した緊急建物補修のための募金にすばやく応答をしてくださった支援者の皆様、それだけでなく、北米、ドイツなどの教会の代表が、アジア学院を訪ねてくださり、支援の約束を下されたことなどは、ア



ジア学院へ皆様から送ってくださった励ましのエールとして受取りました。私はあの時、「あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずですが、神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練にあわせることはなされず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えて下さっています。」(一コリント一〇章一三節)というパウロの言葉を思い浮かべていました。私は、先ずこれらの経験を通して神への信仰に立って、何事にも恐れるなど申しあげたいと思います。

私にはもう一つ恐れを経験があります。一九八六年から九四年までの八年間アジア

キリスト教協議会(CCA)幹事としてシンガポール、タイをベースに働きました。一九八七年一月三〇日、CCAがシンガポール政府によって突然の即日解散命令を受けました。シンガポール政府がCCAに出した命令は、①CCAシンガポールオフィスの即日閉鎖、②全財産の凍結、③全資料の運び出し禁止でした。そのうえ私を含めた五人の外国人スタッフには、一〇日間以内に国外退去命令が出されました。CCA解散命令の主な理由は、CCAが解放の神学を奨励し、アジアの解放運動への参加を呼びかけた、と言うものでした。福音宣教が、平和や正義の問題にかかわる時、国家権力の弾圧を受けることを改めて知らされました。またこのとき、ドイツ及びアメリカの教会が自国の政府を通して、シンガポール政府に働きかけ、CCAの預金や現金の凍結解除の要請をしてくださいました。数日後シンガポール政府が現金・預金の凍結解除をしたとの連絡を受けました。私はこのとき、エキシメニカルな教会のつながりの大切さを教えられました。

日本は、これから厳しい時代に向かっていくことが予想されます。近隣諸国との良好な関係を保つためにも韓国や

中国、台湾の教会とのエキシメニカルな関係を大切に歩んで欲しいと願います。

今日のみ言葉の中でイエスは、イエスを始めとする弟子たちに迫りくる迫害の危機を前にして弟子たちに、人々を恐れないで、神への信仰に固く立って、人々の前で福音を大胆に証しするようにと教えています。イエスによって示された福音に立って語るべきことを語る。全身全霊をもって語ることです。

イエスは、一〇章二八節で「体は殺しても、魂を殺すことのできないものどもを恐れるな」と、弟子たちを励まされました。これは私たちに對する励ましの言葉でもあります。そして「魂も体も地獄で滅ぼすことのできる方を恐れなさい」と言われました。「魂」という言葉は、ギリシャ語の「プシケ」の訳語です。「いのち」、または「真のいのち」を表わす言葉です。神によって与えられたいのちです。人には肉体を滅ぼすことができても、このいのちを滅ぼすことはできません。それができるのは神のみであると語られています。私たちの真の恐れは、体もいのちも滅ぼす力を持った神への信頼へと向かっていかねばなりません。イエスは、

弟子たちに対してイエスに従う者が本当に恐れねばならぬのは、神であつて、人間の力やこの世の権力ではないと教えています。

これから出られる宣教の現場は、教会の中にあつても、

社会の中にある教会としても、厳しいものだと思像できません。人の顔色や社会の流れをみる伝道者ではなく、イエス・キリストへの信仰に固く立つて歩む伝道者となられることを心よりお祈りしています。

農村伝道シンポジウム報告

二年 井口拓人

今年度の農村伝道シンポジウムは、道北クリスチャンセンター主事の藤吉求理子さんをお招きして、「一人ひとりの賜物（ギフト）が輝く教会づくり〜カナダ合同教会の信徒伝道者と教会の働き〜」と題して講演を行った。

藤吉さんは農伝卒業後、カナダ留学を経て、道北クリスチャンセンターで二〇年にわたり貴重な働きをされている。道北センターは一九六〇年の創立以来、「神を愛し、人を愛し、土を愛する」という三愛精神を柱として、地域に根ざした、現場でも最先端の活動をされている。農村伝道神学校も農業実習をはじめ、様々な社会実習があり、土に任せ、また遣わされる様々な現場での実践的な教育を大切にしている。今年も、学生の多くが実習として様々な場所に派遣



され、あらためて現場が持つ力の大きさを学んだこともあり、今回こうして現場経験豊かな藤吉求理子さんをお招きする運びとなった。また同時に、現在の日本の教会の、特に牧師の少ない地方における信徒牧師の養成について多くのことを学び、様々な示唆が

与えられた。

午前の部は、パワーポイントで道北クリスチャンセンターの活動を学んだ。TPPや東日本大震災などの大きな課題があり、食、農というテーマが時代の最先端のテーマとなる中で、三愛塾の多様な働きを学ぶことができた。料理教室を開いたり、全国的に盛り上がりをもよおさせる調理レシピ本の発行や、農家レストラン経営の様子、またそこで働かれる女性の生き活きとした姿、さらに酪農や稲作なども手がけていること、新規就農者支援などを学んだ。そしてそこにおける人と人との交流、アイヌの方々や外国の方々など多様な文化を包含しつつ、ひとつひとつのつながりを大切にしていくことを学び、道北クリスチャンセンターがまさに神と人と土を愛する精神に則り活動されている現場を詳しく学ぶことができた。

さらに信徒のための宣教講座が設けられ、教団にはない信徒伝道者のための独自のシステムを立ち上げ、説教などでの勉強会なども充実していることを知った。牧師を招聘することが難しいという地方教会の現実の中でも、礼拝を

守るだけでなく、各教会が協力しつつ連携し、分かち合い、信徒伝道者の具体的な養成カリキュラムを体系的に学ぶことができた。新会堂を建てたこともあるというから驚きだ。そのようにして分かち合いなどを通して繋がりがあっている。

その背景にはカナダ合同教会での一九八〇年から始まった信徒牧師の養成があり、宣教はすべての人のものであるという基本的な考えが存在している。すべての人がminister（仕える人）であるとし、教会での働きにとどまらず、教育、福祉など広範囲の働きを期待されている。その学びは、実際に体験しながら学ぶという実践的なものがあり、信徒伝道者たちが共に協力しながら現場に仕えていくというものである。

他教派では、このような信徒伝道者の養成システムは広がっていないものの、日本基督教団では未だ確立されてはならず、現状を鑑みれば早急に対策を講じなければならぬ問題である。難しい問題を孕んではいないものの、しかし、教団の制度確立を待つ前に、私たちひとりひとりがそれぞれ、賜物（ギフト）を活かすつつ、ひとりひとりがministerであることと捉え、多くの信徒伝道者の働きが広がれば、

制度は後からついてくるに違いない。まさに現場のなかで足元から変化させていくことが重要であると思わされた。農村伝道神学校も、多くの聴講生が非常に熱心に学びをされておられ、新たな体制へと向かいつつある。

午後の部はアート、ワークショップを通して分かち合いを行った。数ある絵葉書から、自分の今属している教会や現場を象徴、イメージできるようなものを選択し、輪になって座り、自己紹介しつつ、自分の選んだ絵葉書を皆に見せる。だが説明はしない。他者に委ねるものである。次に以下の課題を二〇分の沈黙をもって考える。一、これからどんな教会にしていきたいか？二、そのために、あなたのギフトを活かしてできることは何か？三、信徒と牧師がギフトを活かしかい協力して教会を作っていくためにどうしたらいいか？更にそのイメージを画用紙に蠟燭で絵を描き、その上から水彩絵の具を塗る。二〇分後、自分の近くの席の人と三人のグループを形成し、そのメンバーと一人一五分の持ち時間で分かち合いをした。このワークを通して、自分のギフトが他者から気づかされることとなった。自分が知る

以上に他人が自分のギフトをよく知っていることが分かった。既成の教会概念に捉われず、夢のあるような話も膨らみ、お互いの内面を深く理解できる意義深いものとなった。

今回こうして藤吉さんをお招きしてひとりひとりの賜物(ギフト)を再確認するとともに、また新たな視点を与えられたと感じる。現在の教団の動きを見ると、教会が境界を鮮明にするようなきらいがあるように思われる。だが、そのキョウカイを超えるようなあり方が望まれるのではないだろうか。歴史的構造的な教団のあり方の存続が危ぶまれている中、また大都市主導の強い流れの中、地方教会の突破口を体験できた、そのような農村伝道シンポジウムであったと言える。ユニークなプログラムで、藤吉求理子さんの元氣あふれる、素敵なシンポジウムとなった。以上

夏期実習報告(つづき)

『部落解放センター実習』
「良き日のために」

二年 井口拓人

今年、八月の一ヶ月間、農村伝道神学校の社会実習として部落解放実習に参加させて

頂いた。具体的な地名は伏せているが、東京、埼玉、大阪、京都、和歌山、広島を中心に駆け巡り、机上の学びだけでなく、フィールドワークに重心を置きながらの学びとなった。実習に行くまでは、部落が今も存在しているのか、部落差別が未だにあるのか分からなかったというのが正直なところである。関西は私が大学生の時に過ごした自分の故郷より愛する場所である。しかし一度たりとも差別があると実感したことはなかったし、意識したこともなかった。今回の実習にあたり、周りの知人などから、部落解放という活動をするから差別が無くなる、つまり寝た子は起こす、なというとも言われた。しかし分かったのは、寝た子は起きるのであり、いや、全く眠ってなどいないという事実である。つまり、知人の発言は間違っているのであり、部落差別の存在に疑問を持っているような自分は間違っているということである。確かに小学生の頃、部落についての授業を受けた記憶もあるし、歴史のなかで差別身分が存在していたことも学んだ。しかし、それだけであった。今回部落解放センターに拠点を置きながら、部落差別という実態に直面したのは、まさにそ



(後列左端が筆者)

の現場であり、差別をされている人、その人であった。場と人に出会い、真の意味で部落差別に出会ったといえる。実際にこの現実の社会に、また世界にあらゆる差別があり、それによって苦しみ、また生きる力を損なわれている人たちが今もいるということ、それが今もいざなう、生きること、断念した人たちが今もいるということ。考えれば、解放運動があることは、現に差別が存在しているということの明らかなる証明にも関わらず、如何に自分が無知であったか、ただの傍観者に過ぎなかったか、それどころか自分自身も加害者なのだと思ひ知らされ、言葉を使い、涙が出る、本当に反省している。

本当に様々な体験と出会いがあり、ここでは書ききれないが、少なくともこの出会いを通して自分がどう変化したかを言葉にできたらと思う。(もし部落差別について理解を深めたい、出会いたいという方がいらっしゃいましたら、是非とも部落解放センターに連絡して頂いて、その現場に、そこに生きる人々と出会ってください。それが一番だと思います。)この一ヶ月は毎日新しいことが、景色が、人があり、実際に差別の現状の只中においても、それをすぐに理解できるわけではなく、しばらく経って振り返ると、ボディブローのように衝撃がじわじわと走るのだ。教会に掲げた美しい紫の荊冠旗、差別と闘い続ける若者の真剣な発言に笑顔。冤罪の差別裁判、警察の捜査の矛盾点、無罪を勝ち取るうと全国から寄せられた色紙。被差別部落でないことを示す独自に名乗る地名の表札、差別の境界線であった燈籠、理不尽な歴史が文書として残っている神社、子どもたちが差別からの解放の叫びを上げた白紙の全国学力テスト、おいしい鉄板焼きと、そこで生きる青年たちとの触れ合い、子どもたちと遊んだゴムボール、プール。民族差別に苦しんだ紡績工場の赤レンガ壁、

有刺鉄線、無縁仏になって朽ち果てた墓石。閉ざされた屠殺場と生肉店。ハンゲル溢れる街の、目と鼻の先にある校舎の老朽化の違い、薬屋、銭湯。駅を降りると朽ち果てた労働センターの下に佇む人たち、道路標識に掛けられた洗濯物、祭りで皆が踊って歌って、相撲をとる。路上でドヤで無念の死を遂げた人々の遺影に添えられたお酒、線香。部落解放劇の夜遅くまでの練習、台本、選曲、小道具、照明やミキサー。高野山の神秘的な霧懸かった山、ケーブルカー、僧服。土砂災害が深刻な被害をもたらした広島黄色い空。山のもとの、車で五分とかからない場所にかつてあった刑務所、火葬場、地獄橋。そこで生きてきた人の怒り。青年ゼミでの派遣式。

私は正直、この実習に参加するまで、差別の解放のための働きが、また社会の諸問題に対する働きがキリスト教とどう関係するのか理解できていた。それはその専門家に任せるのが一番いいと思っていた。自分はキリスト者だからなどと自己正当化しつつ、差別されている人がある種の福音宣教の対象として捉えていた自分がいたことを認めざるを得ない。結果的にキリス

ト宣教の手段として利用し、自分の中にある勝手なキリスト教イメージのもとに、自分の言動に自己満足している浅ましい心理があったと言わざるを得ない。極端に言えば、苦しんでいる人たちをキリスト教に改宗させ、クリスチャンの数を増やすことに意味があるのだ、それが福音宣教なのだという思い込みである。しかしそうではないのだ。この出会いを通して、改めて聖書を読むと、イエスがどう生きたか、誰と生きたかに目を開かされる。イエスはまさに彼らと共に生き、解放を実現していった。今、自分の意識や視点が進化し、自分がまず人間としてどう生きればいいのか、その指針が示されたと感じる。まさに現場に出て行って、イエスの生き方を生きるということ。正しい歴史を知り、正しい知識を知り、差別されている人を解放する、その行動こそが福音であるということ。差別している人（いやそれに気づいていなくても）、差別する心からをも、皆が解放放たれることが真の解放だと体感した。この世界の差別と戦うとともに、自分自身の中に潜む差別心とも闘い、あらゆる差別からの解放の喜びを感じながら、これから歩いて生きたい。

追悼

岡本明夫さんを偲んで
九回生 岩高 澄



一九五九年に私たち九回生一三名は伝道、牧会の場に行きました。長く全員が現役を続けていたことを誇りに思っていました。高齢になり三人目のクラスメートを天に送ることとなりました。

岡本さんは、修善寺教会、御殿場教会、金沢長町教会等で牧会されてきました。

老後はご子息等と清瀬市で過ごしおられました。昨年四月に肺炎を発症され、救急搬送されて五か月に及ぶ入院、加療の生活を続けられました。

しかし九月二〇日にご家族に見守られながら天に召されたいかれました。

在学中から仲の良いクラスでしたので、一時は三年目毎にクラス会を行う等、楽しい思い出が残っています。

ご葬儀は一五年間牧会をされた御殿場教会で行われましたが、式次第が無くなるほど

多くの方が出席をされたそうです。

ご遺骨はご自身が尽力された御殿場教会の富士山の見える墓地に納められたとのことです。

ご遺族の上に慰めを祈ります。

理事報告

◆今年度特別講義を開催

・二月九日(火)ー一日(水) テーマ…「二・一一を生きたるキリスト教」講師…佐藤真史氏(東北教区被災者支援センター・エマオ/いづみ愛泉教会担任教師)

・二一日(木)ー二二日(金) テーマ…「パレスチナ問題とキリスト者の責任」講師…神崎雄二氏(月島聖公会牧師)、岩浅紀久氏(ITエンジニアリング研究所代表取締役)、梶山順子・岩浅明子氏(サラーム・パレスチナメンバー)

◆二月二二日(金) 午後5時アドヴェント礼拝を行った。説教者…佐藤研氏

◆二月一六日(月)ー一八日(水) 校長は沖縄で行われた東西中国教区、京都教区合同の「沖縄で合同のとらえなおしと実質化を考える研修会」に参加。普天間、辺野古、高江での抗議行動に参加。

◆二月二四日(火) 講師会にてカリキュラム改定について

報告。意見交換した。

◆二月二六日(木) 今年度の年間評価反省会を行った。

◆三月四日(水) 第六五回卒業式 北口沙弥香、小林喜一、竹花牧人、八重樫芙美恵の四名が卒業した。現在までのところ決まっている赴任先

北口沙弥香…なか伝道所(神奈川教区)
八重樫芙美恵…会津若松教会(東北教区)

理事報告

神学校財政の多くは寄付金によって支えられているが、今年度の寄付金収入は例年に比して大変厳しい状況にある。繰り返し呼びかけをおこなうとともに、神学校を応援してください。くださるかたの層を広げたい。

本年度下半期の業務処理をおこなうなかで、現行就業規則の規定に不備があることが判明したので、関連する給与規程細則を含めて変更する。

神学校は、カリキュラムを二〇一六年度から変更する方向で検討しており、この件を常務理事会としても討議した。

鶴川シオン幼稚園園舎屋上全体の劣化が進んでおり、補修をおこなうことにした。また神学校においても本館と礼拝堂の屋根に損傷があるためこれを補修する。

神学校において現在用いてない家を改修して「黙想の家」にする案を検討している。改修費に多額の費用が予想されるため、実現の可能性を調べている。

二〇一四年度第三回理事会・評議員会は三月一七日に開催する。(書記 横野朝彦)

お知らせ

◆二〇一五年度入学式
日時…四月一日(水) 午後一時三〇分
場所…農村伝道神学校礼拝堂
説教「人が裸であること」
校長 高柳富夫

◇始業講演
日時…四月二日(木) 午後一時
場所…農伝研修棟二階
テーマ…「隅からの世界宣教」
講師…大倉一郎(本校教師)

農村伝道神学校
〒195-0063 東京都町田市野津田町 2024
Tel 042-735-5775 Fax 042-735-5711
Eメール : noden@pony.ocn.ne.jp
ホームページ : http://www11.ocn.ne.jp/~noden/
振替番号
農村伝道神学校 00160-6-18485
農村伝道神学校後援会 00120-6-24418